

第1回 隠岐の島町都市計画審議会立地適正化計画検討委員会 議事録

日時：令和2年8月25日（火）午前9:00～11:00

会場：隠岐の島町ふれあいセンター2階 第1会議室

1. 開会

2. 委員紹介

3. 町長あいさつ

隠岐の島町長 池田高世偉でございます。開会にあたりまして、一言ご挨拶申し上げます。

本日、第1回「隠岐の島町都市計画審議会立地適正化計画検討委員会」を開催致しましたところ、委員の皆様方には、コロナ禍の中、ご出席いただき誠にありがとうございます。全国ではコロナ感染者の発生件数は日当たり千人を超える日が続いていますが、隠岐の島町では、水際でのコロナ対策等の実施によりまして、未だ感染者は発生していない状況です。しかしながら、コロナ対策の影響によりまして宿泊業や飲食業等の営業活動は休業するなど、町民の皆さまの収入が大きく減少する事態ともなっています。隠岐の島町では、このような事態を救済するための特別給付金を支給するなど現在も対策を行っていますが、コロナ感染が未だ終息を迎えていない中、引き続き対策を講じてまいりたいと考えています。

さて、全国的に進む少子高齢化の波は、離島である隠岐の島町におきましても深刻な問題となっています。我が町の人口減少はまちの構造を大きく変え始めています。これまで整備してきました社会インフラは今後長寿命化を含む適正な維持管理が求められます。増え続ける空き家は住環境や景観、まちの安心安全にとって大きな問題です。他方で、超高齢化社会は、医療スタッフや福祉サービスの充実が困難となり、高齢化率の高い隠岐の島町で医療、福祉の機能を維持していくことは喫緊の課題です。産業では、サービス業は年々増加傾向にありますが、隠岐の島町の重要な産業である農林水産業の従事者や担い手不足が深刻となっています。

このような問題に対しまして、町では今年6月に人口減少対策を兼ね備えた、第2次総合振興計画を策定し、まちの将来像とその実現に向けた方向性を決めました。総合振興計画では、まちの将来像を『つながる』ことをキーワードとして捉え、目指すべきまちの基本目標を定めました。人のつながりは、今を生きる私たちだけではなく、次世代へのつながりも必要です。このようなまちづくりは、私が公約として掲げてきました「生まれてよかった、住んで良かった、訪れて良かった」のまちづくりの核として取り組む、西郷港玄関口の活性化にも通じる理念です。有人国境離島である隠岐の島町の玄関口からつながる玄関口地域の衰退は、隠岐諸島の地域力を弱め、国にとっても地政学的課題に大きな影響を与えることが懸念されることと思います。

このため、西郷港玄関口地域からつながるそれぞれの地域を持続していくためには、人口減少対策とあわせて、変化するまちの構造に対応した都市計画を進めていくことが重要と考えています。都市計画においては、今後のまちを持続する上で効率的で、また、

まちづくりを進める上で効果的な都市となるための『コンパクトシティ』を目指すため『立地適正化計画』を策定することとしたところです。計画策定にあたりましては、まちの構造を決定する上で関係各方面の幅広い視点からの検討が必要であることから、この度、専門家の皆さま、関係団体、関係機関からなる「立地適正化計画検討委員会」を設置することといたしました。

各委員の皆さま方には、ご多忙の中を誠に恐縮ではございますが、それぞれのご立場、また専門分野から、未来につながる都市づくりに向けて、有意義なご意見及びご提案を賜りたく存じております。どうか、この度の立地適正化計画が、隠岐の島町の都市づくりの指針となり、将来「良かった」と実感することができるまちづくりに寄与するものとなりますよう、皆様方のご協力をお願い申し上げます。簡単ではございますが、ごあいさつをさせていただきます。どうかよろしく申し上げます。

4. 委員長あいさつ

委員長を務めさせていただきます、桑子です。よろしくお願いいたします。

私は2年前からお手元にあります西郷港玄関口まちづくり計画をつくるコーディネーターをしてみえました。住民参加型の計画づくりということで誰でも参加できるような形をとり地元の方に参加していただき、西郷港周辺の東町、中町、西町、港町の4町を全体として考えて地域の活性化をどのように考えたら良いか議論していただいて計画ができました。これはこの地域の将来ビジョンを描く計画ですが、具体的にこれからターミナルエリアのハード面の改装を含めて進めていかなければならないという段階に来ております。この計画の中では例えば西町の道路整備や建て替えなども含まれています。西町の道路整備はすでに着工されており、歩いていただいたら分かると思いますが綺麗になりました。私は昨日歩きましたが、毛利酒店のお母さんがとても喜んでいらっしゃいました。「もうこれで完成でしょうね」とおっしゃっていましたが、そうではなくもう少し色をつけてより安全な道になるようにします。

その他にもいろいろとありますが、何よりも大切なのはターミナルエリアであり、交通機能の充実とともに、地域の人々あるいは隠岐の島町全体の人々がターミナルエリアで休憩をしたりおしゃべりをしたり、観光客がそこで時間を過ごせるような、そういった空間をつくる作業にこれから取りかかります。そのために必要なのがこの立地適正化計画です。この隠岐の島町の玄関口を魅力あるものにするための会議に皆さまに来ていただいているという風に考えていただければと思います。

立地適正化計画がどういうものなのかはなかなか分かりにくいですが、本日は立地適正化計画がどういうものなのかを勉強していただく会議です。もしお分かりにならないことがありましたら、是非分からない点をご質問いただけて理解を深めていただきたいと思います。また、ご関係の機関の方にも来ていただけておりますので、ここで理解していただいたことを職場や地域で「こういうことが進められているのだ」とお知らせいただければと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

5. 議題等

1) 立地適正化計画の策定について

◇資料説明

◇質疑応答・意見
(特になし)

2) 隠岐の島町の都市の現状と計画策定の必要性

◇資料説明

◇質疑応答・意見

細田委員：我々専門家は知識があるのである程度は分かっていると思うが、皆さんがどのくらい分かっているのかが不安である。基本的に立地適正化計画というのは都市機能誘導区域と居住誘導区域を設定する。資料 30 ページは現状の施設で円を描けばこのくらいの広さであるということだが、これをある程度減らし、よりコンパクトにしていく必要があるのかもしれない。現状の施設を再編・統合して無くしていかないといけない。その後、居住誘導区域がそのまわりに設定される。それも現状住まわれているエリアよりもできれば移っていただきたい。その後の暮らしが難しい場合には居住誘導を進めるエリアに整備される公的住宅に移り住んでいただけるとありがたい。そのようにどんどん小さな箱の中に皆さんののちの世代を移していきたい。それはなかなか役所からは言いにくいところがあると思う。だが、そういうことをすることによって道路や下水道などの総延長距離を徐々に短くしていきたい。厳しい話をしていかなければならないと思う。また、資料 26 ページの子どもの数を見ると、令和 27 年度になると恐らく小中学生合わせて 600~700 人くらいになり、将来を見据えると島内に小中一貫校が 1 校ということになるのではないかと思う。そういうことを考えながら今回の計画について考えていかないと、20 年 30 年先の将来がならないのではないか。また、今立地適正化計画のエリアは都市計画区域の西郷のあたりだけを考えているが、五箇のあたりなどは今回の計画で何も触れなくて良いのか。例えば五箇にも生活利便の最低限の拠点を残す指針などにも触れるべきではないかと思う。

桑子委員長：人口の構成の観点から、今後人口が少なくなると施設の再編の必要もある。人口が何人くらいのときにどうなっているかというのも考えなければならぬ。なかなか厳しい状況もあると思う。それから、人口の減少について、高校を卒業した子どもたちが島外に出て行く。高校生たちとも話をしたが、最近では島に戻りたいと思っている子たちも増えている。しかし、厳しい状況には変わりはない。どのくらいのタイムスパンで時間をかけてそういうことを考えていくかということである。また、空間的なことと言えば、都市計画区域以外の地域はどうしていくのかということであった。その点は、計画をつくることによって見捨てられるのではないかと思われることがないようにしていかなければならない。

事務局：人口減少によって教育施設に限らずさまざまな公共施設が今後今のままで良いのか、統合していく必要があるのかという話だったと思う。町の中でもさまざまな計画があり、それらも確認しながらこの検討委員会の

中で議論していきたい。また、西郷地区以外の地域に関しては、島根県では小さな拠点づくりをひとつの手法として県内の立地適正化計画をつくっている。そういうことを計画の中で検討していきたい。これについても町の中で施策があるので、それらも紹介しながら立地適正化計画の中に書き込むことが必要である。

橋本委員：資料 30 ページの図だが、恐らく見方が違うのではないかと思う。先ほどの説明では、さまざまな施設があって、連続しているところもあれば飛び飛びになっているところもあるということだった。しかし、生活している人にとって一定の距離の中に買い物できるところや医療機関などの生活に必要な施設がそろっているのはどこなのか、どうせなら全てそろっているところに住んでもらう。あるいは、人が住むべき場所だが一部機能が欠けているところにはどのように誘導してきたらいいのか、例えば買い物の機能が無いところであればどうやってその機能をもってきたらいいのかという、そういう部分を含めて考えなければならない。先ほどの話にも出てきた小さな拠点というのはそういう機能を全部まとめたものを置くことによってその周辺を住みやすくしようという話だと思う。強制移動を伴うような話ではなく、できるだけ便利なところに集まり将来にわたってまちを維持していこうという考え方である。その上で現在の施設を見ていくと、どのあたりが住みやすいのか。地元に住んでも意外とこのような地図は見たことないと思う。このあたりが便利、家を建てるならこのあたりがおすすめといった場所をまず意識していただければ良いと思う。計画は計画として役所が将来にわたって投資していく場所はどこなのかということになってくるので、エリアを設定することには当然なると思う。基本的な考え方は、住みやすい場所に人が集まって生活しましょう、そういう場所は現在の状況から見てどこになるのかをまず考えましょう、ということだと思う。

桑子委員長：居住誘導という言葉を聞くと、こっちに住んでくださいというような強力なプッシュがあるような感じがする。しかし、魅力ある居住地域とはどういうものなのかということを示しながら、施設が足りないところがあれば再配置するなどすることによって、そちらに住んでみたいな、とか、世代を超えた住み方をどうしたら良いかなど、そういったアプローチができれば良いと思う。

篠原委員：人口は減っているが、将来を担っていくのは子どもたちなので、子どもたちに隠岐の良さを伝え、帰ってきたくるような教育や情緒豊かに育てることが大事ではないかと思う。また、隠岐の島町を 1 周する機会があったが、隠岐の島町は美しい島である。これがまちの方ばかりに行ってしまったら残された自然は誰が守るのか。そのあたりも併せて考えていただきたい。

桑子委員長：都市機能がキーワードとなっているが、島全体の豊かな自然資源とまちとの関係をどのように捉えていくかということであった。それを次の世代の若い子どもたちにどのように考えてもらうかということだと思う。まちづくり計画をつくるのにも西郷小学校と西郷中学校で子どもたちの意見を聞いた。子どもたちは自然についてなど相当よく勉強してい

た。ただやはり、仕事がなかなか無いということで外に出て行く人も多い。まちづくりと活性化をセットにして考えていかなければならない。

事務局：次の世代やさらにもうひとつ次の世代になってもまちが賑やかに持続していくことが必要なので、そのための計画づくりをしている。将来の子どもたちに繋ぐためにもこういったプロセスを踏んで計画づくりをしなければならぬということをご理解いただきたい。

村上委員：先ほどまでの説明のところでの疑問だが、資料 29 ページのところ空き家をマーキングしているが、実際のところ直近のデータで空き家はどのくらいあるのか。

事務局：今手元に資料はないが、統計調査では隠岐の島町全体で空き家率がとても高い値となっている。これは空き家の定義が別荘のような建物を含めるかどうかにもよって少し変わるが、直近のデータでは※14%近い値だったと記憶している。（※正確には 12.3%）

村上委員：資料では細かく調査されて地図に落としているので、できればエリアごとにデータを参考として提供していただければ良いと思う。

桑子委員長：中町あたりは空き家があり、地区では若い人たちに住んでもらいたいという希望はあるが、住みたい人がいても個別になるとなかなか買いにくいといった状況がある。地域ごとのデータはどうか。

事務局：隠岐の島町では空き家の調査を 2 回実施していて、最新の調査からは 5 年近く経っており、そろそろ次の調査を実施する時期ではある。直近のデータは全部の家をまわったり各地区の区長さんに聞き取りをしたりして空き家の実態をつかんだ調査を行い、資料 29 ページはそれを元につくっている。ここにもあるように中町や港町は町全体と比べても非常に空き家率が高い。それは数値としてもある。空き家は多いがその空き家がなかなか活用しにくいというのが多い地区のようである。民間の建物なので難しい問題だが、空き家をどう活用するのか、また、古い建物はどう取り壊して土地を有効活用ができるのかというのは空き家対策で進めている。それも次のまちづくりに考え方を盛り込まなければならぬと考える。

細田委員：ほかの自治体でも空き家にジレンマがある。都市機能誘導区域や居住誘導区域に西郷のまちもなるが、そこに空き家が多い現状がある。そこに誘導区域設定をした場合に、空き家はあるが土地の価値としてはポテンシャルが上がってしまい、余計手放したくなくなり、こちら側がしていることと真逆の動きをする可能性があるのではないかと思う。ほかの自治体がどのような状況になっているのかは私も聞いたことがないが、予想していない現象が起こるかもしれない。そこにそれを円滑に誘導させるようなソフトな事業や助成制度を組み合わせなければ思った効果が出てこないのではないかと思う。

3) 隠岐の島町立地適正化計画策定の進め方について

◇資料説明

◇質疑応答・意見
(特になし)

4) 住民アンケート調査の実施について

◇資料説明

◇質疑応答・意見

舟津委員：県としては、この立地適正化計画を地元でしっかり揉んでいただいて、できるだけ皆さんの意見を汲み、主導的には町がしっかりしていただければ、協力していきたい。

村上委員：資料 38 ページの問 6 だが、最寄りのバス停という表記がされている。ここにはデマンドタクシーの停留所も含まれているのか。そうであれば質問の仕方を注意されたほうが良いと思う。

徳畑委員：隠岐の島町の都市計画を考える上で、バス停の有無やバスの利用を前提に考えるのは現状として合っているのか。そのあたりも検討していただきたい。実際、ほとんどの方がバスを使うことはない。それをベースに調査を進めていくのが本当に良いことなのかと思う。また、先ほども話はあったが、民間施設を誘致するにあたって土地の価格みたいなことを考えながら進めなければならないと思う。中町になぜ店ができないかという、土地が高いからだと思う。土地が狭いというのもあるが、高いから誰も住まず、別の土地が安いところに住もうということになる。中町の土地を安く誘導するような計画も考えなければいけないと思う。もうひとつ、西郷港が玄関口だから必ず活性化しなければいけないという前提のもとで本当に良いのかという気がする。例えば、出雲空港や米子空港の前には何も無い。また、広島の子品港にも何も無い。昔おじさんおばさんたちがやっていた商店が中町にはたくさんありすごく賑わっていたと言うが、今そのおじさんおばさんたちはおらず、広い駐車場を持った商業施設が成功している。それを中町にもって来るとするのは土地の問題があったり空き家の問題があったりしてなかなか難しい。西郷港に昔の賑わいを取り戻すことだけが都市計画ではないと思う。せっかく意見を言わせてもらえる場なので極端な意見を言ったが、これもひとつご検討いただければと思う。

桑子委員長：この 2 年をかけてやってきたのは西郷港周辺の玄関口のまちづくりであったが、この立地適正化計画では都市計画区域に視野を広げ、隠岐病院や新庁舎のあたりとの関係をどうしていくのかがテーマである。それから都市計画区域外との関係もどうしていくか、西郷港周辺の地域から視野を広げて西郷のまちの将来を考えるということだと思う。貴重なご意見をありがとうございます。限られた時間での議論なので、お帰りになったあとにお気づきの点があれば、事務局までご連絡いただきたい。

大庭委員：町としては、玄関口だけの発展ということではなく、隠岐の島町全体をバランス良く計画していかなければならない。その中で、まず玄関口をどのようにして計画すれば地域の方も便利になるかということを考えて

いかなければいけないと思っている。以前、市街地活性化計画が町の計画としてあったが、結局、町として積極的な施策を打ってこなかった。それではいけないので、町も腹をくくって立地適正化計画に関わっていかなければならないと思っている。地域の方はその地域で暮らしたいという考え方もあり、玄関口だけを発展させるのではなく、その関連性を強めていくこと、そのためにはどういった方法があるのかを皆さんに考えていただきたい。回数が限られているのでその中で皆さんのご意見をいただきながら検討を進めて参りたいと思っている。積極的なご意見を引き続きよろしく願いいたします。本日はありがとうございました。

5) その他

◇質疑応答・意見
(特になし)

6. 事務連絡

7. 閉会